

大学改革実行プラン

応用生物科学部 学部長 金丸 義敬



各務同窓会報



岐阜大学

原発問題を中心に大変困難な社会状況が続いておりますが、皆様におかれましてはつつがなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

任期2年を何とか乗り切り、残り1年は少しゆつたりと務めることが出来るものと算段していたところ、思いがけなく再任のご指示をいただくこととなりました。1年間という短い期間となりますが、3名の副学部長や事務長、事務長補佐はじめ教職員の皆様方の強力な後押しをいただきながら学部の運営を続けていくところです。どうぞよろしく願います。

さて、この春新聞にも大きく取り上げられた出来事がありました。岐阜県からの寄附講座の受入です。野生動物による農林業への被害、生活環境や自然生態系への悪影響が全国的に深刻な問題となっておりますが、地域課題としてこの問題を解決するために、野生動物保護管理対策の向上を目的として岐阜大学と岐阜県との間で協定が締結されました。過去に本学部では「野生動物の生態と病態からみた環境評価」(21世紀COEプログラム)を通して野生動物研究の拠点形成に努めてきました。この活動に基づいて学部附属施設

設として設置した野生動物管理学研究センターが岐阜県との連携を密にしていきたいことが今回の受け入れにつながりました。同センター内に寄附講座として「鳥獣対策研究部門」を設置し、2名の専任教員が担当するかたちで5月1日から活動を開始しています。年間2,000万円の予算により5年間をかけて鳥獣害対策の岐阜モデルとして県域の野生動物保護管理のかたちをつくりあげることにあります。全国でもユニークな取り組みとして注目されており、その成果が大いに期待されています。

獣医学関連の動きとして、来年4月から鳥取大学との共同獣医学科がスタートすることになりました。文科省からの正式な認可の知らせも既に届いています。共同獣医学教育開発推進センターという先進的な組織を設け、遠隔教育による新しい獣医学教育のかたちを確立することになっており、予算面でも相当の手厚い補助を受ける見通しが出来つつあります。学生達は基本的に入学を許されたそれぞれのキャンパスで教育を受けつつ、必要に応じて異なるキャンパス間の教員や学生の移動も含めて、両大学で同一の教育プ

ログラムによる教育を受けることとなります。卒業時は両大学長の名前の入った卒業証書を受けることとなります。この共同獣医学科の設置は後述する国立大学の改革の動きと関連して、今後の応用生物科学部のあり方に大きな影響を与えるものと考えております。

組織関連でお伝えすべき他の動きとして、応用生物科学研究科の専攻名称変更があります。生物環境科学と資源生命科学の専攻名称を学部における課程名称と一致させ、それぞれ生産環境科学専攻及び応用生命科学専攻に変更することを申し出ていたところ、文科省から先日正式な認可の決定通知を受け取りました。これによって学部教育からの積み上げとしての大学院教育が可能になり、これまで以上に広い視野を持った高度専門職業人として生物産業で活躍出来る人材を育成出来るものと期待しております。

さて、この原稿をまとめている最中に、我が国の大学の有り様を大きく変えることになるであろう施策として「大学改革実行プラン」が文部科学省から発表されました。新聞報道では、例えば「国立大を広域再編―都道府県を超え学部集約―」(6月4日付読売新聞)といった見出しをともなっており、都道府県を超えて国立大学の学部や運営法人の再編を進める方針を文科省が固めたとされています。昨年の近況報告でお伝えしたように、国立大学協会でも機能強化の取り組みの中で大学改革の必要性をすでに表明しておりました。どうやら文科省側はこの取り組みが生ぬるく、このま

ま大学に任せておくことは出来ないとの考え方を明確にしたようです。大幅な経費削減が不可避の中で、社会的課題に対応し、国際的にも通用する教育・研究を実現させるためには、もっとメリハリのある予算配分を行うことが、期待通りの役割が認められるところには十分の予算を手当するが、そうではないところは整理することもやむを得ないという、これまで以上に思い切った考え方があるようです。当面の具体的な作業としては、大学および各学部のミッション(社会的使命)の再定義を行い、その内容を文科省と協議する中で、大学の枠・学部の枠を超えた再編成等が個別に検討される計画となっており、本学部もまた来年夏を目処に独自のミッションを明確に打ち出すことを通して学部の存続を訴えていくことになります。

「大学の自治」と死語となった言葉は今さら繰り返すつもりは毛頭ありませんが、「官僚統制が強まる恐れ(6月18日付日本経済新聞)」の中で、これまで中心概念として大学人の活動を支えてきた「何ものにも束縛されない自由な発想」がこれからは大学の場から決して失われることのないように切に望むところです。

最後になりましたが、会長の交代がございました。長らくお努めいただきました後藤前会長様には心よりお礼とねぎらいの気持ちを表したいと思っております。また、これから各務同窓会を取りまとめていただきます水野新会長様には本学部の発展のためにとぞよろしくお願い申し上げます。



会長挨拶

水野 隼人（C大15）

各務同窓会の皆様には益々ご清栄にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

私こと、さる6月2日開催されました平成24年度各務同窓会代表委員会におきまして後藤会長の後を受け会長に選任されました。

微力ではありますが精一杯努めさせていただく所存です。皆

様のご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

後藤会長様には同窓会発展に誠心誠意のご尽力を賜りましたこと、ここに深く感謝し敬意を表する次第です。

今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

本年3月195名の学部卒業生、96名の大学院修了生を本会

会員として迎えました。

全国69支部11,500名をこえる支部、会員の皆様、新会員の受け入れにつきまして特段のご高配をお願い申し上げます。

農学部が応用生物科学部に改組され8年がすぎました。

従来の学部同窓会の枠を越えた岐阜大学同窓会連合会も立ち上がり3年がすぎました。

このような状況の中、昨年全国の支部の皆様から現状と、支部改革の貴重なご意見をいただきました。

それによりますと、支部運営

謝申し上げます。今後は水野隼人新会長のもと、新体制で同窓会の運営を進めて参ります。

次に最近の岐阜大学と同窓会の関係ですが、大学としては従来以上の関係強化を希望しています。それは、大学は評価され選別される時代に入ってきていますが、その中でも「質の保証」が評価の重要な項目となっています。すなわち、大学としては卒業生の社会での動向調査とその分析が必要で、それらのデータは同窓会を通じて収集したいとの意向が有ります。さらには、卒業生の貴重な社会や仕事に対する経験を、学生たちに伝えてもらうための企画が具体

のキーワードは高齢化、会員相互の連絡、大学の情報等のテーマが共通しております。

この現実をしつかりおさえ、同窓生にとって岐阜大学がもっと身近に、もっと愛着をもつて「想い」を共有できるよう努力して参りたいと思います。

世の中が大きく変化している今日、母校も確実に変化発展し、地域に役立つ存在感のある大学になっていきます。会員の皆様もそれぞれの地で相互の親睦と向上をはかり、母校の発展がそれぞれの地で進むことを祈念

化されています。新入生の授業に卒業生を講師として派遣することや、在学生を対象とした就職支援やアドバイスを比較的多望の春にして」が岐阜大学愛唱歌に選ばれました。同窓会の会合でも、皆さんで合唱していただければ幸いです。愛唱歌については、岐阜大学ホームページ「大学案内」↓「大学の概要」↓「岐阜大学愛唱歌」で歌詞および試聴ができるようになっていきます。

最後に、各務同窓会の皆様のご健勝をお祈りしますとともに、同窓会活動へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

幹事長挨拶

幹事長 丸尾 幸嗣（獣医学課程）

平成24年度の各務同窓会幹事長を拝命しました丸尾と申します。従来、同窓会幹事は現職の岐阜大学出身者の教員が選出されていましたが、昨年度からは出身大学に関わらず、岐阜大学応用生物科学部全教員の中から各務同窓会の幹事を抜擢することになりました。私は岐阜大学出身者でない初代幹事長となります。微力では有りますが、各務同窓会の発展のために努力いたします。

まず皆様にお知らせしなければ

ばならないことは、後藤悦男会長および太田耕造副会長の交替の件です。後藤会長は平成16年より4期8年の長きにわたり会長職をお務めになられました。その間、平成19年度には応用生物科学研究科創立と農学部85周年記念事業の推進、および各務同窓会長賞の創設、平成21年度から2年間は岐阜大学同窓会連合会の初代会長を務められ、連合会の組織基盤を作られるなど、多くのご貢献をされました。太田副会長様共々心より感

きます。

うれしいニュースとしては、旧岐阜高等農林学校校歌「我等多望の春にして」が岐阜大学愛唱歌に選ばれました。同窓会の会合でも、皆さんで合唱していただければ幸いです。愛唱歌については、岐阜大学ホームページ「大学案内」↓「大学の概要」↓「岐阜大学愛唱歌」で歌詞および試聴ができるようになっていきます。

最後に、各務同窓会の皆様のご健勝をお祈りしますとともに、同窓会活動へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後に、各務同窓会の皆様のご健勝をお祈りしますとともに、同窓会活動へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後に、各務同窓会の皆様のご健勝をお祈りしますとともに、同窓会活動へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後に、各務同窓会の皆様のご健勝をお祈りしますとともに、同窓会活動へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後に、各務同窓会の皆様のご健勝をお祈りしますとともに、同窓会活動へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

各務同窓会報

平成二十四年度
各務同窓会代表委員会報告

平成二十四年度各務同窓会代表委員会は、六月二日（土）正午から、長良川河畔のホテルパークで開催されました。当日は、初夏の新緑が美しい中、多くの方に参加いただきました。北海道から高知まで、三十七名の代表委員の方々に加えて、役員及び幹事等十八名を合わせて、五十五名の参加をいただきました。

代表委員会は、後藤悦男会長の挨拶で始まりまして、特に、本年は、本各務同窓会としては、誠に嬉しい話として、「岐阜大学全体の愛唱歌として、旧岐阜高等農林時代からの校歌、「我等多望の春にして」が採用され、昨年度末の大学全体の卒業式、そして、本年度の入学式で披露されたこと」について紹介がありました。続いて、平成二十四年度の幹事長、幹事、監事の紹介後、丸尾幹事長から就任の挨拶がありました。続いて、議長に岐阜県職各務同窓会支部代表委員の平工孝義氏が選出され、議事に入りました。

第一議案は、平成二十三年度事業・決算報告及び会計監査報告です。初めに、景山幸二平成二十三年度幹事長から事業報告が、次いで向井讓会計担当幹事から会計報告がありました。更に、福井博一監事から会計監査報告があり、会計が適切に執行されていることを確認した旨の報告がありました。本議案は、原案通り承認されました。

第二議案は、平成二十四年度事業計画（案）です。土井守事業担当幹事

から説明があり、名簿の発行を本年十二月に予定していること、このため会報の発行は八月に予定されていることについて説明がありました。また、卒業式での同窓会長表彰は、学部三名、大学院二名を予定していることについて提案がありました。いずれも、原案通り承認されました。

第三議案は、平成二十四年度の予算（案）です。大場恵典会計担当幹事から説明があり、承認されました。

第四議案は、役員の改選です。長らく会長職を務めていただきました後藤悦男会長におかれましては、このほど退任されることとなりました。また、太田耕造副会長におかれましても、同じく退任されることとなりました。後藤会長の後任には、水野隼人氏を、太田副会長の後任には辻和信氏を、それぞれ充てる案が丸尾幹事長から提案され、承認されました。その後、新会長の水野氏からは、就任の御挨拶をいただきました。

その他の議案として、三つほど丸尾幹事長から説明がありました。第一は、農工科名古屋市役所支部について、解散の提案があり、了承されました。第二は、岐阜大学工学部の同窓会である「工業倶楽部」の関東支部から、関東地区での活動につき、両学部同窓会で連携をとりつつ進めたい、ついでには各務同窓会の関東地区での活動



実態、連絡先等について知りたい、という旨の依頼があったことについて紹介されました。基本的には連携を進める方向で、先方の活動実態等についても知らせてもらい、よく相互に連絡して進めていく方向で了承されました。第三は、名簿の発行についてです。会員からの要望も強く、名簿のサイズを見易いA4判とすること、ただし、見開きで必要な情報が一覧できるようにになっている現在のスタイルは維持することについて提案があり、了承されました。

以上で議事を終了し、退任される後藤会長、太田副会長に、水野新会長より記念品の贈呈がありました。

最後に名誉会長の金丸義敬応用生物科学部長から挨拶がありました。旧岐阜高等農林の校歌、「我等多望の春にして」が岐阜大学の愛唱歌として選定された経緯について紹介があり、数年前から森学長が、校歌の無かった本学に、ぜひとも校歌がほしい旨の意向を持たれていたこと、そして、それに相応しい愛唱歌として、「我等多望の春にして」が選定された経過について、詳しい紹介がありました。

なお、同窓会事務局へのご質問・連絡等がありましたら、058-293-3411（15：30以降は留守番電話になります）、E-mail: ob-abs@gifu-u.ac.jp までよろしくお願い致します。

平成23年度支部総会開催状況

支 部 名	期 日	出 席 者
東 京 E 科 会	23.04.25	松本 康夫
愛知県各務会・愛知各務会	23.05.21	西村 眞一
愛知県高等学校教員	23.06.18	高見澤一裕
岐 阜 県 高 等 学 校	23.06.26	景山 幸二、丸尾 幸嗣
長 野 北 信	23.07.02	宮川 修一、土井 守
石 川 県	23.07.09	海野 年弘
三 重	23.07.09	景山 幸二
愛知県職員林務関係同窓会	23.07.15	光永 徹
愛知県職員農業関係各務同窓会	23.07.26	木村 正信
飛 騨	23.08.26	前澤 重禮
各務林学同窓会愛知県	23.08.26	山内 亮
静 岡	23.10.01	向井 讓
江 南	23.10.15	石田 秀治
中 濃	23.11.04	景山 幸二
	23.11.12	西村 直正
岐 阜 県 職	24.02.11	会長、金丸 義敬 博一、丸尾 幸嗣 千家 正照、向井 讓
岐 阜 市 役 所	24.02.24	福井 博一
東 海 農 政 水 機 構	24.02.29	清水 英良
岐 阜 大 学	24.03.02	会長、副会長

平成24年度岐阜大学各務同窓会役員

名 誉 会 長	金 丸 義 敬	
会 長	水 野 隼 人	(C大15)
副 会 長	矢 井 治 夫	(A大 7)
	清 水 正 巳	(F大10)
	伏 見 知 彦	(C大18)
	北 川 精 一	(V大18)
	板 津 敏 彦	(E大12)
	小 森 利八郎	(N大10)
	辻 和 信	(P大 5)
相 談 役	杉 山 幹 夫	(M 1)
	岩 井 威 道	(V大 1)
	新 藤 秀 逸	(SP21)
	中 村 孝 雄	(N大 7)
	後 藤 悦 男	(V大 2)

平成24年度幹事長・幹事及び監事

幹事長	丸尾 幸嗣	(獣医学課程)
幹 事 (庶務・幹事代理)	荒幡 克己	(応用生命科学課程)
(事 業)	土井 守	(生産環境科学課程)
(会 計)	大場 恵典	(獣医学課程)
監 事	景山 幸二	(流域圏科学研究センター・生産環境科学課程)
	向井 讓	(生産環境科学課程)

各務同窓会報

平成23年度各務同窓会決算報告

自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日

1. 一般会計 2. 基本金特別会計 3. 資産現在高 4. 資産保管状況

1. 一般会計

(1) 歳入の部 (単位：円、小文字は内訳)			
勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 会 費	2,380,000	1,765,500	△ 614,500
入 会 金	2,260,000	1,700,000	△ 560,000
年 会 費	120,000	65,500	△ 54,500
2. 利 子	615	328	△ 287
3. 雑 収 入	540,000	482,330	△ 57,670
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,230,000	3,230,000	0
当期歳入合計 (A)	6,150,615	5,478,158	△ 672,457
前年度繰越収支差額	79,385	79,385	0
歳 入 合 計 (B)	6,230,000	5,557,543	△ 672,457

(2) 歳出の部			
勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事 務 費	2,181,000	1,875,925	△ 305,075
消 耗 品 費	10,000	1 284	△ 8,716
人 件 費	1,800,000	1,747 266	△ 52,734
通 信 費	30,000	29,380	△ 620
旅 費	36,000	36,000	0
終 身 会 費 返 金	300,000	60,000	△ 240,000
雑 費	5,000	1,995	△ 3,005
2. 会 議 費	1,210,000	874,160	△ 335,840
代 表 委 員 会 費	200,000	146,830	△ 53,170
代 表 委 員 会 旅 費	1,000,000	724,480	△ 275,520
役 員 会 費	10,000	2,850	△ 7,150
3. 事 業 費	2,150,000	2,160,914	10,914
会 報 等 印 刷 費	500,000	600,000	100,000
会 報 郵 送 費	900,000	823,560	△ 76,440
雑 費	700,000	690,606	△ 9,394
ホ ー ム ペ ー ジ 管 理 費	10,000	10,000	0
同 窓 会 長 賞 費	40,000	36,748	△ 3 252
4. 名簿関係費	10,000	3,500	△ 6,500
発 送 費	10,000	3,500	△ 6,500
5. 慶 弔 費	50,000	9,596	△ 40,404
6. 支部総会派遣費	400,000	361,090	△ 38,910
7. 卒業・修了祝賀会費	150,000	150,000	0
8. 予 備 費	70,000	44,326	△ 25,674
当期歳出合計 (C)	6,221,000	5,479,511	△ 741,489
当期収支差額 (A) - (C)	△ 70,385	△ 1,353	69,032
次期繰越収支差額 (B) - (C)	9,000	78,032	69,032

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部 (単位：円、小文字は内訳)			
勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 終 身 会 費	4,560,000	3,400,000	△ 1,160,000
新 入 生 分	4,520,000	3,340,000	△ 1,180,000
卒 業 生 分	40,000	60,000	20,000
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	120,309	47,978	△ 72,331
当期歳入合計 (A)	4,680,309	3,447,978	△ 1,232,331
前年度繰越収支差額	71,949,691	71,949,691	0
歳 入 合 計 (B)	76,630,000	75,397,669	△ 1,232,331

(2) 歳出の部			
勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 一般会計への繰入	3,230,000	3,230,000	0
2. 振 込 料	5,000	0	△ 5,000
当期歳出合計 (C)	3,235,000	3,230,000	△ 5,000
当期収支差額 (A) - (C)	1,445,309	217,978	△ 1,227,331
次期繰越収支差額 (B) - (C)	73,395,000	72,167,669	△ 1,227,331

3. 資産現在高

(単位：円)

項 目	年度始現在高	現在高
1. 一般会計	79,385	78,032
2. 基本金特別会計	71,949,691	72,167,669
合 計	72,029,076	72,245,701

4. 資産保管状況

(単位：円)

項 目	一般会計	基本金会計
1. 現 金	4,299	
2. 普通預金		
大 垣 共 立 銀 行	691	
十 六 銀 行	34,289	2,797,945
中央三井信託銀行		2,458,130
三菱UFJ信託銀行		3,021,611
郵便 局	38,753	
み ず ほ 銀 行		5,473,732
3. 定期定期貯金		
大 垣 共 立 銀 行		9,600,186
十 六 銀 行		21,816,065
三菱UFJ信託銀行		6,000,000
中央三井信託銀行		21,000,000
4. 振替貯金	0	0
三菱UFJ信託銀行		0
合 計	78,032	72,167,669
総 計		72,245,701

平成24年度各務同窓会予算

収支予算書 (平成24年4月1日～平成25年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部 (単位：円、小文字は内訳)			
勘 定 項 目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 会 費	2,520,000	2,380,000	140,000
入 会 金	2,400,000	2 260,000	140,000
年 会 費	120,000	120,000	0
2. 利 子	368	615	△ 247
3. 雑 収 入	540,000	540,000	0
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,230,000	3,230,000	0
当期歳入合計 (A)	6,290,368	6,150,615	139,753
前年度繰越収支差額	78,032	79,385	△ 1,353
歳 入 合 計 (B)	6,368,400	6,230,000	138,400

(2) 歳出の部			
勘 定 項 目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 事 務 費	2,181,000	2,181,000	0
消 耗 品 費	10,000	10,000	0
人 件 費	1,800,000	1,800,000	0
通 信 費	30,000	30,000	0
旅 費	36,000	36,000	0
終 身 会 費 返 金	300,000	300,000	0
雑 費	5,000	5,000	0
2. 会 議 費	1,210,000	1,210,000	0
代 表 委 員 会 費	200,000	200,000	0
代 表 委 員 会 旅 費	1,000,000	1,000,000	0
役 員 会 費	10,000	10,000	0
3. 事 業 費	2,250,000	2,150,000	100,000
会 報 等 印 刷 費	600,000	500,000	100,000
会 報 郵 送 費	900,000	900,000	0
雑 費	700,000	700,000	0
ホ ー ム ペ ー ジ 管 理 費	10,000	10,000	0
同 窓 会 長 賞 費	40,000	40,000	0
4. 名簿関係費	0	10,000	△ 10,000
発 送 費	0	10,000	△ 10,000
5. 慶 弔 費	50,000	50,000	0
6. 支部総会派遣費	400,000	400,000	0
7. 卒業・修了祝賀会費	150,000	150,000	0
8. 予 備 費	110,000	70,000	40,000
当期歳出合計 (C)	6,351,000	6,221,000	130,000
当期収支差額 (A) - (C)	△ 60,632	△ 70,385	9,753
次期繰越収支差額 (B) - (C)	17,400	9,000	8,400

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部 (単位：円、小文字は内訳)			
勘定項目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 終 身 会 費	4,900,000	4,560,000	340,000
新 入 生 分	4,800,000	4,520,000	280,000
卒 業 生 分	100,000	40,000	60,000
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	42,331	120,309	△ 77,978
当期歳入合計 (A)	4,942,331	4,680,309	262,022
前年度繰越収支差額	72,167,669	71,949,691	217,978
歳 入 合 計 (B)	77,110,000	76,630,000	480,000

(2) 歳出の部			
勘 定 項 目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 一般会計への繰入	3,230,000	3,230,000	0
2. 振 込 料	5,000	5,000	0
3. 名簿特別会計への繰入	12,140,000	0	12,140,000
当期歳出合計 (C)	15,375,000	3,235,000	12,140,000
当期収支差額 (A) - (C)	△ 10,432,669	1,445,309	△ 11,877,978
次期繰越収支差額 (B) - (C)	61,735,000	73,395,000	△ 11,660,000

3. 名簿特別会計

(1) 歳入の部 (単位：円)			
勘 定 項 目	予 算 額	平成18年度予算額	差 異
1. 基本金特別会計より繰入	12,140,000	11,690,000	450,000
2. 名簿売上金	10,000	10,000	0
3. 広 告 料	900,000	1,000,000	△ 100,000
4. 利 子	0	0	0
歳 入 合 計	13,050,000	12,700,000	350,000

(2) 歳出の部			
勘 定 項 目	予 算 額	平成18年度予算額	差 異
1. 名簿印刷費	8,000,000	8,000,000	0
2. 編集荷造費	600,000	600,000	0
3. 郵 送 費	3,350,000	3,000,000	350,000
4. 調 査 費	650,000	600,000	50,000
5. 予 備 費	450,000	500,000	△ 50,000
歳 出 合 計	13,050,000	12,700,000	350,000

学園だより

課程等の近況

◆応用生命科学課程

同窓生の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年報告しましたように、当課程は平成23年4月に「食品生命科学課程」から「応用生命科学課程」に変更いたしました。本年度、2度目の入学試験を迎えましたところ、志願者倍率も安定しており、世間での認知が正しく進んでいるものと安堵しております。

さて、本年3月には卒業生74名を送り出し、そのうちの42名が大学院修士課程に進学しました（他大学院への進学者3名を含む）。資源生命科学専攻の修士課程修了者は53名で、そのうち3名がさらに研究の研鑽を積むために博士課程に進みました。一方、4月には、本課程に81名の新入生および「食品生命科学課程」の3年次編入で5名の学生を迎え入れました。また、大学院修士課程に50名が入学しております。

教員の動向としては、本課程として昨年度末で退職された教員はございませんでした。それに対して、手薄になっておりました食品生命科学コースに4月1日付で、島田昌也氏が助教として赴任されました。今後の活発な教育研究を期待しているところです。

金丸義敬教授には2期連続の学部

長に就任していただき、大学および学部の管理、運営の指揮を執ってもらっております。山内亮教授は連続して副学部長（総務・財務担当）としての確に学部長を補佐しておられます。鈴木昭教授は昨年度から引き続き、連合農学研究科長として様々な改革を行いながら博士課程教育の充実のため尽力されております。また、早川亨志教授が教学委員会委員長、前澤重禮教授が大学院委員会委員長として学部の円滑な運営の一端を担われております。さらに、高見澤一裕教授は「産官学融合本部」本部長に就任され、社会との連携に力を注いでおられます。

なお、長年にわたり教育研究に尽力され、さらに、種々の面で全学的にも多大な貢献をされました金丸義敬教授（食成分機能化学）、木曾真教授（生理活性物質学）、棚橋光彦教授（バイオマス変換学）は、本年度末をもって定年退職となります。先生方の当学部に対するご貢献に対して敬意を表したく存じます。

また、本年6月の開学記念日には、教育研究面に著しい功績があった者として長岡利教授が表彰を受けられました。学生の表彰に關しましては、23年度卒業時に、卒業生から田中裕真君（学部長表彰）、村田一馬君（同窓会長表彰）、修了生から山内恒生君（学長表彰）、小西美紅君（研究科長表彰）、本田明里君（同窓会長表彰）、随時の表彰制度で荻野寛子

君（研究科長表彰）、さらには本年6月の開学記念日に、2年生の加納俊史君がそれぞれの表彰を受けております。

課程教員一同、有為な学生を世に送り出せるよう誠心誠意努めております。同窓生各位には今後とも就職等各種の情報に關しましてご支援を頂けますよう重ねてお願いいたします。また、大学学部は自立のため、「産官学協同」や「地域貢献」を大いに推進する必要があります。この点につきましても皆様方からの暖かい激励や支援に加えまして、力強い連携も心より願っております。どうかよろしくお願いいたします。

（後藤清和）

◆生産環境科学課程

生産環境科学課程の近況をご報告申し上げます。本年3月、本課程から87名が卒業し、うち34名（他大学大学院を含む）が修士課程へ進学しました。また、本研究科第3期の修了生として生物環境科学専攻から43名を送り出し、うち6名が博士課程へ進学いたしました。3月の卒業・修了祝賀会において、卒業生では豊吉優希さんが学長表彰、鶴飼剛啓君が学部長表彰、野田沙織さんが同窓会長表彰を受け、修了生では光田佳代さんが研究科長表彰、日恵野綾香さんが同窓会長表彰を受けました。

一方、本年4月、本課程に新入学生

92名（3年次編入学生5名を含む）、また大学院生産環境科学専攻に41名を迎え、活発な教育研究がおこなわれています。

次に、各コースの動向についてお知らせいたします。

応用植物科学コースは、13名の教員からなり、コース長は荒井聡教授です。管理運営面では、福井博一教授が昨年に引き続き教育・研究担当副学部長および教育研究評議会委員として学部のみならず全学の管理運営に尽力されております。また、田中逸夫教授は、岐阜フィールド科学教育研究センターの新センター長になられ、附属施設の管理運営を担っておられます。小山博之教授は入試委員長として入試業務を統括する重責を担っておられます。

応用動物科学コースは、11名の教員からなり、コース長は土井守教授です。昨年度より開始されたテニユア・トラック事業の助教として本年1月に只野亮氏が着任されました。

なお、伊藤慎一教授、大谷滋教授、川島光夫教授、吉崎範夫教授の4名の教授が本年度末をもって定年退職される予定です。伊藤慎一教授（動物遺伝学）は、長年にわたり家禽の遺伝育種に関する教育・研究に取り組み、多大な功績を残されました。管理運営面では、代議員として連合農学研究科の運営にご尽力されたほか、入試委員長としてもご活躍されました。大谷滋教授（動物生産栄養学）は、家畜・家禽の生産性向上のための飼育管理に関する教育・研究に取り組み、大きな功績を残されました。管理運営面では、岐阜フイー

ルド科学教育研究センター長を勤められ、同センターの発足時に運営基盤を築かれたことに加え、応用動物科学コース長として同コースの管理運営にご尽力されるなど大きな功績を残されました。川島光夫教授（動物内分必学）は、家禽の産卵生理に関する制御機構に関する教育・研究に多大な功績を残され、管理運営面では、長らくアイソトープ実験委員を勤められ、アイソトープ実験に係わる管理運営に貢献されてきました。吉崎範夫教授（動物発生学）は、鳥類の発生の仕組みの解明や進化に関する教育・研究において多大な功績を残され、全学共通教育の企画運営にもご尽力されました。また、管理運営面では課程長として課程の教育、研究、管理運営の全般にわたってご活躍され、この間、カリキュラムの改正や生産環境科学基礎実験の新設などにご尽力された他、応用動物科学コース長としてもご活躍されました。

環境生態科学コースは、16名の教員からなり、コース長は土田浩治教授です。研究面では土田浩治教授の指導のもと特別研究員で連合農学研究科修了生の吉澤樹理さんが山内克典氏（教育学部名誉教授）、土田浩治教授との連名で第23回日本環境昆虫学会において優秀発表賞を受賞されました。管理運営面では、小見山章教授が昨年度に続いて理事・副学長として大学全体の学術研究・情報

の重責を担っております。

末筆ながら、同窓生各位のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

（向井 譲）

◆獣医学課程

獣医学課程の現況をお知らせします。獣医師国家試験では、31/34名の合格でした。今年の卒業生の進路は、小動物診療が多く（55・9％）、次いで地方公務員（20・6％）でした。優秀卒業生は、獣医師会長賞・朝比奈良太君、学部長表彰・多和田怜奈さん、同窓会長表彰・大塚由沙実さんです。また在学生学長表彰は並木まり子さんです。

今年度末に連合獣医学研究科深田恒夫教授が退職されます。長年の貢献にお礼申し上げます。新任教員として3月に内科学研究室に西飯直仁准教授が、4月に分子病態学研究室に村上麻美助教と動物病院放射線治療システム管理担当山崎美史任期制助教が着任しました。

モデルコアカリキュラムが制定され、共同教育、参加型臨床実習、共用試験、第三者評価等により獣医学教育が大きく変わります。岐阜大学は、平成25年度入学生からの実施に向けて共同学科設置を申請しました。名称は岐阜大学応用生物科学部・鳥取大学農学部共同獣医学科です。大学連携支援プログラム「獣医・動物医学系系教育コンソーシアム」による社会の安全・安心に貢献する人材の育成」が終了し、平成23年度から口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備事業が始まりました。岐阜大学は「産業動物診療分野における全国的臨床実習システムの構築」を担当します。小森成一名誉教授が担当特任教授として再登板です。獣医学教育は激動の時代を迎え、

課程一丸となって対応中です。皆様のご支援・ご鞭撻をお願いします。詳細は獣医学課程ホームページのニュースレターをご覧ください。最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍を祈念します。

（北川 均）

◆連合農学研究科

卒業生の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本研究科は、平成3年の設置から22周年を迎えました。本年度の学位授与者数は課程博士19名（外国人留学生12名）と論文博士3名（外国人0名）でした。学位授与者の総数は課程博士が583名（外国人留学生286名）と論文博士が137名（外国人18名）になりました。本年度の入学生は定員20名に対して22名（外国人9名）です。さて、本研究科教育指導制度の単位制移行は、本年度で完成しました。本年度から、博士論文研究の進捗状況を、半年毎に行う中間発表において指導教員全員で確認していただき、3年間での学位取得へと導いていただく体制を指導組織として整えました。また、学位取得後のキャリアパス支援のために、ご経験豊富な人材として産官学融合本部から杉本勝之博士（C大6）が推挙され、昨年度からコーディネーターとして週1回来学され、対応していただいています。若き博士の就職支援の一助になればと期待しています。また本年度は電子ジャーナル（Reviews in Agricultural Science）を創刊しました。本研究科修了生、

在学生および教員の共通研究媒体となることを期待しています。また、本研究科の教育・研究の充実のために、国内外の研究機関や大学（研究科）等との連携も推進しています。今後とも、本研究科の発展のためにご指導とご協力をよろしくお願いいたします。最後に、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

（鈴木文昭）

◆連合獣医学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、昨年度の学位授与者数は、課程博士は22名および論文博士は6名でした。本年度の入学者は、定員に1名足りない19名ですが、秋入学者もこれらに加わりますので、多分定員割れになることは無いと思います。4月13日には入学式を連合農学研究科と共に開催しました。

昨年度は、山口連大で開催されました獣医学特別講義（岐阜連大と少し異なっている）に参加し、本年度には数名の代議委員に参加してもらい、山口連大の良いところを吸収しつつ、東西連大の意見の交換の場を増やしたいと思っています。

本研究科においてはグローバル化を進めています。その一環として一昨年度に採択された若手研究者等派遣プログラムが本年で修了するため、新たなプログラムに申請しつつ、運営経費からも実施出来るように検討して参りたいと思っています。

今後とも、連合獣医学研究科にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

げます。

（深田恒夫）

◆岐阜フイールド科学
教育研究センター

各務同窓会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本年度より生産環境科学課程の田中がセンター長に就任し、大場、石田両専任教員、森本、細江、加藤、都竹各技術長の下、応用生物科学部学生対象のフイールド科学ならびに同実習、他学部対象のフイールド科学概論や教育学部対象の栽培学、あるいは学外の方への公開講座、各種見学対応など活発な活動を続けております。公開講座としては引き続き「家庭菜園の基礎理論と実際」「食と緑と命の学校」「冬山を歩こう」などを企画、開催中です。また昨年度には岐阜県および岐阜市教育委員会、岐阜都ホテル、J A岐阜並びに中部学院大学等と各種協定を結び地域貢献も活発に実施しています。

美濃加茂農場では本年度より池田明子さんが技術補佐員として採用され元気に業務に励んでおります。柳戸農場では障害者就労支援の一環として本年度も四名の方が技術職員とともに働いているほか、ボランティア受け入れ制度では三名の方に来ていただいています。

今後とも同窓の皆様方のご協力ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

（田中逸夫）

◆動物病院

卒業生の皆様方にはますますご健勝のことと存じます。

動物病院スタッフの異動については、3月1日付で内科診療科に鳥取大学より西飯直仁准教授が赴任されました。さらに4月1日付で腫瘍科に村上麻美助教と、放射線治療システム管理担当として山崎美史特任助教が着任されました。いずれも本学の出身者であり、すでに周囲とも打ち解け診療業務に当たっております。これで臨床系教員17名、特任助教2名にくわえ、非常勤獣医師6名、動物看護師8名、技術職員および事務職員となります。

一方、来年3月には前動物病院長で、連合大学院研究科長の深田恒夫先生が退職されます。先生の内科診療科でのこれまでものご活躍のみならず、動物病院の運営における多大なご貢献に対し感謝申し上げます。

運営に関しては、おかげ様を持ちまして腫瘍科を中心に順調に収益を伸ばしております。また4月より磁気共鳴断層（MR）装置が稼働を開始しましたので、とくに中枢神経疾患に対してより精密な診断・治療が実施されることが期待されます。

このように今後も地域のご要望にこたえるべく活動してまいりますので同窓生の皆様方にはご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（山添和明）

野生動物管理学
研究センター

各務同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度は、野生動物管理学研究センターにとつて大きな躍進の年となりました。本センターに、ワイルドライフ・マネジメントに特化した「鳥

です。その運営上の特徴は、岐阜県からの寄附金にもとづく「寄附研究部門」という点にあります。原資となる寄附金が県の新税である「森林環境税」から支出されることも、もう一つの特徴です。開設と同時に、教員として東京農工大学から角田裕志先生（准教授）、朝日大学から森部絢嗣先生（助教）が赴任され、岐阜県職員の横田隆博さん（主任技師）が常駐するという体制も整えられました。

岐阜県のみならず、現在の日本の野生動物関連の諸問題は複合的かつ重層的であり、被害防除等に関わる個別案件対応では限界があることは明らかです。そのため、「鳥獣対策研究部門」は、「鳥獣対策を円滑に進めるためのシステム構築」、「施策の立案に関わる助言や効果検証を担うシンクタンク機能の整備」、「地域の実情に応じた的確な指導を行うことができる専門家の育成」等、制度とができる設計と実質化を主要な目標としております。しかし、いずれにしましても産声を上げたばかりの部門であることには変わりはなく、今後の発展のために、同窓の皆様には引き

続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本セクターは、岐阜県との共同運用体制で傷病鳥獣救護に従事してきましたが、県の「第11次鳥獣保護事業計画」の策定を踏まえ、同業務は本年3月31日をもって終了することになりました。これまでに頂いた支援に対し、改めて深くお礼を申し上げます。

比較がんセンター

(鈴木正嗣)

本センターは平成22年4月に設置され、3年目を迎えました。伴侶動物とヒトのがんの発生状況、病態、治療と予後に関する類似性および相違性を研究し、伴侶動物とヒトのがん克服に役立つ成果を上げるべく、活動をしております。国内外との医薬獣連携を模索しておりますが、特に大学間協定校であるコロラド州立

大学との交流は、大切にしています。伴侶動物のがん研究においては、コロラド州立大学の動物がんセンターは世界的にトップレベルのセンターであり、本比較がんセンターの目標でもあるからです。昨年は教育連携の一環として、動物がんセンター教員を招聘して、講義を実施しました。今年も継続して実施する予定です。

比較がんセンター主催の「第5回比較腫瘍学シンポジウム」を平成24年3月に開催しました。難治性がんである悪性黒色腫と血管肉腫をテーマに、医学と獣医学双方からシンポジストをお招きして、活発な討論を行いました。

今後とも社会に貢献できるセン
ターとして活動していきますので、
ご支援ご指導のほどお願い申し上げ
ます。

（丸尾幸嗣）



只野 亮

平成24年1月1日付けで、応用生物科学部応用動物科学コースに助教

新任教員のあいさつ

として着任いたしました只野亮と申します。私の専門分野は、動物遺伝学で広島大学にて学位を取得した後、同大学で2年間の博士研究員、

さらに名古屋大学鳥類バイオサイエンス研究センターへ移り、9ヶ月間の研究員としての勤務の後に、岐阜大学へテニユアトラック教員として着任いたしました。本学で初めてのテニユアトラック教員の中の一人という事で、周りの方々のご期待に応えられるように、精一杯努力していきたくと考えております。

私はこれまで、家禽であるニワトリを対象とした遺伝学的研究をメインテーマとして実施してきました。岐阜大学の位置する東海地方は、古くから養鶏などの家禽産業が盛んな地域であります。さらに岐阜大学は、家禽を対象とした研究において

も長い歴史があり、特に私がこれまで行ってきたニワトリの遺伝的多様性や系統関係の解析の分野では、大きな実績がある研究機関でもありま

す。そのため、本学において教育研究活動に携われることを私自身大変嬉しく思っております。今後は、家禽を対象とした研究活動を通して、何らかの形で地域産業へも貢献していきたいと考えております。本学は、豊かな自然に囲まれ、さらにキャンパスの近くに農場が併設されており、農学・畜産学分野で研究活動を行う者にとっては、大変恵まれた環境にあると思われれます。このような特性を十分に生かしながら、今後の教育研究活動を展開していきたいと考えております。まだ若輩の身ではありますが、本学での教育研究活動へ貢献できるように、日々努力していく所存でおります。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



西飯直仁

平成24年3月1日付けで獣医内科
学研究室に准教授
として着任致しま

した。学部・大学院と岐阜大学でお世話になり、計10年間を過ごした「第2の故郷」である岐阜に戻ってくるのができて、とてもうれしく思います。私は学部卒業後は開業動物病院で小動物臨床に従事し、また博士号取得後は鳥取大学で教育研究に携わってきました。これらの経

験を生かし、岐阜大学の獣医学教育に貢献したいと考えています。

主な研究テーマは動物の内分泌代謝異常です。大学院では犬の肥満に ついてアディポカイン（脂肪組織から分泌されるホルモン）に着目して 病態解析を行いました。鳥取大学に 移ってからは主に猫を研究対象とし て、高脂血症や肥満におけるインス リン抵抗性と脂肪肝といった代謝異 常の病態について研究してきました。 また内分泌疾患の多くは自己免 疫疾患であり、血液中の自己抗体が 診断に用いられています。私は疾患 の動物における病的な自己抗体、そ して健康な動物でみられる自然自己 抗体についての研究も進めており、 主体内で自己抗体が内分泌に与える 影響について解明することが目標で す。岐阜大学でもこれらの研究をさ らに発展させ、獣医臨床に役立つ成 果が得られるよう尽力したいと思っ ます。

附属動物病院では専門である内分
泌疾患を中心に、内科疾患の診療を
担当する予定です。専門的な知識・
技術を修得し、周辺の開業獣医師か
ら信頼される2次診療獣医師となれ
るよう、これからも日々精進したい
と思います。

学生時代からお世話になっている
先生方と同じ職場で働かせて頂くこ
とを大変光栄に思います。これから
もご指導を頂きますようお願い致し
ます。



各務同窓会報

島田 昌也



平成24年4月1日
付けで応用生物
科学部食品生命科
学コースに助教と
して着任しました島田昌也と申しま
す。静岡県出身で、静岡県立大学を
卒業、同大学院を修了し、昨年度ま
で千葉県立保健医療大学に勤務して
おりました。これまで人生の大半を
静岡県で過ごしてきたため、馴染み
深い東海地方に戻ってくることで
きたことを大変嬉しく思います。

私は、博士課程在学中から千葉県立保健医療大学に勤務している間、糖質の消化吸収を遅延する、すなわち食後の血糖上昇を緩やかにする食品成分による生活習慣病予防効果の解明を、実験動物の小腸、末梢白血球、脂肪組織の遺伝子発現に焦点をあて研究を行ってきました。生活習慣病予防には糖質の代謝調節だけでなく、脂質の代謝調節も非常に重要です。現在、私の所属する食品分子機能学研究室の教授である長岡利先生は、コレステロール代謝を改善するペプチドの探索や脂質代謝を改善する食品成分の新規作用メカニズムを解明する研究に尽力し、数多くの研究成果をあげられてきました。私は長岡教授の研究に大変感銘を受けたため、長岡教授とともに、これらの食品成分と脂質代謝改善に関する研究に取り組むことを通じて、生活習慣病の予防に貢献し、歴史と伝統のある岐阜大学の発展に努めていきたいと思っております。今

後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく
お願いいたします。

村上 麻美



平成24年4月1日
付けで応用生物
科学部獣医学課程
獣医分子病態学教
室の助教として着任いたしました村
上麻美と申します。私は平成17年に
岐阜大学獣医学科を卒業、連合獣医
学研究科に進学し、岐阜大学より博
士号を拝受いたしました。博士取得
後も2年間岐阜大学獣医病理学講座
で、病理診断医として勤務したとい
う岐阜大っ子です。博士課程在籍中
には、イヌの脾臓に好発する血管肉
腫という高悪性の腫瘍における腫瘍
細胞の浸潤と転移のメカニズム機構
の解明を研究テーマとしておりまし
た。今後は、附属動物病院腫瘍科の
スタッフとして診察に携わりながら
も、診療時に得られた問題を解決
すべく、疾患の診断や治療に寄与
するよう研究を行っていきたくと思
っています。特にイヌの炎症性乳癌
のような治療法が乏しい悪性腫瘍や
メラノーマ・扁平上皮癌のような好
発するも効果的な治療法の選択肢が
少ない悪性腫瘍について、病態を解
明し、早期発見法や新規治療法を開
発することを目標とし、腫瘍に罹患
した動物や飼主様の力になりたい
と思っております。

臨床系教員として、診察・研究・

教育と為さなければならぬことは山のようにありますが、これまでに以上の責任感と高い志を保持しながら、精一杯努力をして行く所存です。また教員となった現在、岐阜大学へ恩返しができることを幸に思っております。まだまだ、若輩の身でありますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

山崎 美史



平成24年4月
に、応用生物科学
部附属動物病院の
放射線治療シス
テム管理担当助教として着任いたしま
した。岐阜大学農学部獣医学科を卒
業した後、兵庫県の動物病院で約10
年間臨床に携わってきました。あり
がたくも縁があったため平成22年
12月に岐阜に戻り、平成24年3月ま
では岐阜大学応用生物科学部附属動
物病院の腫瘍科で非常勤獣医師とし
て勤務いたしました。当動物病院に
はオルソボルテージ放射線治療器に
加え、平成22年にはリニアックが導
入されており、放射線治療に積極的
に取り組んでおります。放射線治療
に携わるうちに興味が高まり、一念
発起して第一種放射線取扱主任者資
格を取得し、今に至ります。

現在は主に担癌犬の血漿中代謝物の分析を行っております。数種類の生体内代謝産物を同時に網羅的に解析し、正常犬と担癌犬の違い、担癌

犬の治療による変化、腫瘍ごとの重症度による違いなどを比較することで、最終的には特異的な腫瘍マーカーの確立を期待しています。簡便で有用な腫瘍マーカーの確立は腫瘍の早期発見や早期治療につながるのみならず、治療のモニターをより積極的にに行える可能性があります。また専門の放射線分野に関しましても、治療に携わるだけでなく正しい知識の啓蒙にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。小動物の放射線治療は新しい分野であり、今後の発展が期待できます。微力ながら精一杯尽力する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

教員の異動

採用

H24. 1. 1	生物生産科学講座 応用動物科学 助教	只野 亮
H24. 3. 1	獣医学講座 臨床獣医学 准教授	西飯 直仁 鳥取大学から
H24. 4. 1	応用生命科学講座 食品科学 助教	島田 昌也
H24. 4. 1	獣医学講座 臨床獣医学 助教	村上 麻美
H24. 4. 1	附属動物病院 助教	山崎 美史

教員・旧教員の受賞

猪島 康雄 准教授

平成23年度日本獣医学会賞
平成23年3月31日

景山 幸二 教授

須賀 晴久 准教授
アジア菌学会優秀ポスター賞
平成23年8月10日

椎名 貴彦 准教授

第21回日本病態生理学会大会奨励賞
平成23年8月20日

中川 智行 准教授

第47回生物工学奨励賞(斎藤賞)
平成23年9月26日

早川 享志 教授

日本食物繊維学会賞
平成23年11月26日

高見澤一裕 教授

第62回岐阜新聞大賞(学術部門)
平成24年2月25日

安藤 弘宗 准教授

2012年度農芸化学奨励賞
平成24年3月22日

松井 勤 教授

第9回日本作物学会論文賞
平成24年3月29日

退職予定者のあいさつ

運命のいたずら

金丸 義敬



その当時各務原のキャンパスにあった家禽畜産学科の四階建て建物の一階にあった畜産製造学講座に助手として到着したのは1977年の7月1日、真夏の太陽が容赦なくギラギラと照りつける本日に暑い日でした。近くの自衛隊各務原基地を飛び立つ航空機の地鳴りのような騒音がその暑さを耐えがたいものとしていたことを思い出します。教員となることを目指したわけではなく、さりとて他に明確に将来の方向性をイメージしていたわけでもなく、研究することの面白さを捨てがたいまま博士課程学生として居残っていた私に「岐阜大学で公募があるから応募しなさい」という指導教授の一言があり、採用されるという幸運な結果となったことが思えば今日に至る最初の運命のいたずらでした。

いただいた教職員の皆様とともに同窓生の皆さんの暖かいご寛容のおかげと、ただただ感謝を申し上げるばかりです。

この間、黒野キャンパスへの移転とともに、学部組織のさまざまな変化を経験しました。農学部から応用生物科学部へ、家禽畜産学科から生物資源利用学科を経て食品生命科学課程、そして応用生命科学課程へと所属した教育組織の名称も変わり、研究室名もまた畜産製造学から食品機能化学を経て現在の食成分機能化学へと二転三転しました。こういった変化のすべてが必ずしも私の思いと同じではなかったこともまたある意味では運命のいたずらといってもよいのかもしれません。

そして土壇場になって最大の運命のいたずらが訪れました。学部長の拝命です。思いもかけない方向に向かう人生の皮肉を深く感じざるを得ません。

一方で、「生体防衛から見たミルクトタンパク質の機能解明とその利用」という課題に自らの意志を持って一貫して取り組み、研究室の学生さんたちと日々楽しみながら研鑽を続けることができたことが、私にとつては決して運命のいたずらなどではない

最高の幸せだったとつくづく感じております。

この学園を去るに当たり、あらためてお付き合いいただいた皆様方に心より感謝申し上げます。ととともに、岐阜大学応用生物科学部の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

定年を迎えて

木曾 真



今年の6月1日、岐阜大学の63回創立記念日に、満65歳となり、来春3月末で定年を迎えます。昭和50年（1975年）3月26日付けで、農芸化学科植物成分化学講座（長谷川明教授）の助手として着任以来、38年の長きに渡り岐阜大学にお世話になりました。これもひとえに、皆様の温かいご支援のお陰であり、心より感謝申し上げます。大正ロマン漂う那加キャンパスで7年、現在の黒野キャンパスで31年、沢山の思い出が走馬灯のように巡ってきます。1976年の国際糖質シンポジウム（京都）の直後に、「岐阜大学炭水化物研究会」（幹事・上野、長谷川、加藤、木曾）が発足、同年9月にはリヒテンタール教授を迎えて第1回講演会が開催されまし

た。ウイスコンシン大学への留学経験は、その後の教育・研究の原点となり、今も世界への挑戦意欲が蘇ってきます。黒野キャンパスへの統合移転は本当に大変な事業でしたが、今では緑豊かな美しいワンキャンパス・ユニバーシティとなりました。長年の悲願であった博士課程が1991年に設置され、研究室からはこの21年間に、29名のPhDが世界へ羽ばたきました。計測センター長時代（1995～97年）、そして教務厚生副委員長長時代（2000～02年）は、公私ともに超多忙の厳しい時代でしたが、微力ながらも、皆様の多大なご厚意とご支援に支えられて、ここまで頑張ることができました。長い間、本当にありがとうございました。最後になりましたが、応用生物科学部ならびに各務同窓会の益々の発展と同窓の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、退職の挨拶いたします。

退職のご挨拶

棚橋 光彦



岐阜大学に赴任してから22年になりますが、毎年、フレッシュな学生が研究室に入ってきてはこの学

生とどんな研究をやるのかと毎日楽しく考えているうちに22年の歳月があつという間に過ぎてしまいました。まさに光陰矢のごとし、でした。学生は皆、まじめで、活気があり、種々の分野の研究を同時に併行して進めることができ、とても良い環境であつたと思っています。私は大学での研究生生活は自由奔放をモットーとしていますので、先生方、事務の皆様に変な迷惑をおかけしたと思いますが、その分学生は自由を満喫できたのではないかと思います。

研究テーマとしては樹木細胞壁形成過程のシミュレーションとして透析膜法を用いたりゲニンの脱水素重合機構の解明や、セルロースの結晶転移関連の研究として高圧水蒸気処理によるIαからIβへの転移やII型の逆平行鎖モデルに反対して、平行鎖であることを証明するため、種々の条件下、特に最近では超高圧下での結晶転移について研究を行ってきました。これらの基礎研究の他に応用研究として、高圧水蒸気を用いた繊維の形状記憶や木材の圧縮成型加工、3次元深絞り加工、さらにはバイナードレスボードの開発とこれを応用した砂漠緑化資材の開発、高圧水蒸気蒸留法による難揮発性抽出成分の効率的分取法の開発を行ってきており、岐阜大学発のオリジナルな研究として、

定年退職のご挨拶



伊藤 慎一

昭和51年1月に
本学に着任し、来
春3月末の定年退
職をもって本学を
去ることになりました。在職期
間は、37年3ヶ月の見込です。

定年退職にあたり、在職中お世話になった数多くの方々に、ご挨拶申し上げます。着任時は、旧農学部家禽畜産学科家禽育種学講座（研究室）に所属し、昭和63年4月の学部内改組により、

いづれもすでに実用化され、家具や建築材料や携帯電話や圧縮木材を用いたボールペン、印鑑など、さらには愛知万博会場の遊歩道で用いられたバインダーレスポード、ウエスタンレッドシダー蒸留液からの抗菌剤や土壌改良材、セルロース系繊維やシルク、ウールさらにはアラミド繊維などの形状記憶などいろいろな分野で利用されてきています。これらはいずれも学生や院生の研究のたまものであり、卒業生には大変感謝しています。

最後になりましたが、応用生物科学部ならびに各務同窓会の一層のご発展と皆様のご健勝を祈念申し上げ、退職の挨拶とさせていただきます。

生物資源生産学科動物生産学講座動物遺伝育种学教育研究指導分野（研究室）となり、平成8年10月の学科内改組により新設された多様性生物学講座に移籍し、新たな遺伝資源学分野（研究室）として改称した後、平成16年4月には、学部の名称変更で、現応用生物科学部生産環境科学課程応用動物科学コース動物遺伝学（研究室）と、着任から退任までの間、時代の変化の中で、4度の研究室名の変更を体験させられました。

縁あって岐阜大学に居場所を得て36年が過ぎ、早くもと言うかとうとうと言うか来春をもって退職することになりました。退職にあたり各務同窓会会員の皆様に会報紙面をお借りしてご挨拶を申し上げます。

私は昭和51年10月家禽畜産学

教育面では、遍歴した4度の研究室で、来春の卒業・修了予定者を含め、卒業生180名（女子97名、男子83名）と修了生39名（女子10名、男子29名）が、社会に巣立って行かれました。

研究面では、着任した時の研究室で、日本の文化とも深く関わっていたウズラを研究対象としていたことが、顧みると、ライフワークになってしまいました。種々熟考した末、当時はまだ白地図であったウズラの遺伝子地図作りを研究目標とし、多くの学生・院生らの力により、ほぼ当初の目標を達成することができました。

最後に、皆様方のご健康とご発展を祈念し、定年退職のご挨拶とさせていただきます。

退職に寄せて



大谷 滋

縁あって岐阜大学に居場所を得て36年が過ぎ、早くもと言うかとうとうと言うか来春をもって退職することになりました。退職にあたり各務同窓会会員の皆様に会報紙面をお借りしてご挨拶を申し上げます。

私は昭和51年10月家禽畜産学

した。それを最後まで続けられたのは200名を超す研究室専攻生が家畜家禽に興味を持ち、愛情を持ってそれらの動物を世話してくれたことと附属農場が身近にあり動物を飼うことを通して様々なことを考えることができたことにほかりません。大変ありがたく感謝しております。

最後になりましたが各務同窓会会員の皆様のご健勝、ご発展を心から祈念しております。ありがとうございました。

追究したものです。研究の切掛けは恩師である田中英英先生の「家禽繁殖学」の講義で鶏の排卵周期におけるプロゲステロンの作用時期と血中濃度との関係について質問したことからでした。その後、今日までこれに関わる分野の研究に従事することが出来、これ以上ない幸せな研究生生活を送ることが出来たと思っています。その中で特に想い出す研究は視床下部・脳下垂体前葉系にプロゲステロン、エストロゲンおよびアンドロ

退職に際して

川島
光夫

想うこと

この日が何時か
来ることは昔から
理解していました
が、現実には今年で

あると認識したら過去の楽しいことや辛いことが走馬燈のように頭の中を駆け巡りました。思い出と決めつけることの出来ないほどの場面が昨日の出来事のように生々しく浮かんできました。その幾つかについてここで述べてみようと思います。

私の研究は日米研究者交流協定により渡米し、現地で行った研究以外は全て鶏の産卵生理に関わる内分泌生理学的な側面を

したことです。当時、受容体はまだ薬理学的な概念でしかなく、これを明らかにした私の研究成果に対して多くの著名な先生から「君のデータはアーティファクトでないか」と言われ続けたのも、今では懐かしい思い出があります。

学生の指導を含む教育に關しての思い出も研究の場合と比べても負けないほど多くのことが浮かんできます。若き日に指導した学生から最近の学生までが、大学、高校の教育界や官庁さらに企業や研究所において重きを成す役職に就いて活躍していることを知ると自分自身のように嬉しく感じます。さらに教養部の廃止に伴って全学部教員が教養教育を担当するようになり、私は「西洋文化としての音

楽と科学」という総合科目を一人で担当していました。私が若い頃からレコード盤で聞いたクラシック音楽、ヨーロッパや米国の著名なホールで聴いた有名な指揮者と楽団の演奏や国際誌の投稿で知った査読者達の考え方、さらにギリシア文明から東ローマ帝国の滅亡・ルネッサンスを経て産業革命、フランス革命やメートル法の制定に至る文化と科学の歴史を組み合わせて纏めたものを講義してきました。この中で感激したことは、「クラシック音楽の聴き方が変わった」とコメントしてくれた学生達、卒業後に音楽談義をするために何度も自宅まで訪れてきた卒業生、1年生で講義を受けて単位を取ったにも関わらず4年生で再度受講した学生などであります。教養教育を担当してからは本学部以外に医学、工学などの他学部の学生に講義することが出来、彼等の反応が本学部学生とずいぶん異なることを知り、このことが新たな楽しみとなっていました。町中の意外な場所です。先生の講義を受けましたよ」と呼ばれるときは大抵の場合、「西洋文化論」を受けた人達です。彼らが「クラシック音楽を通して西洋文化の真髄、すなわち科学を支えている思考を理解できたことは有意義であった。」と言われたときは本当に幸せを感じ、この講義を10年近く

も続けられた原動力でありました。さらに私の研究活動においても鳥類のホルモン受容体の幾つかについて暗箱を世界で最初に開けてそれを発展させることができたことは、指導した学生達の喜びが大きな励みでありました。

最後になりましたが、応用生物科学部ならびに各務同窓会の益々の発展と同窓の皆様のご健勝・ご隆昌を祈念しまして、退職の挨拶と致します。長い間、本当に有り難うございました。

退職にあたって

吉崎 範夫



平成25年3月に定年退職を迎えるにあたって、一言ご挨拶申し上げます。

私は昭和49年7月に教養部助手として採用され、一般教育(生物学)担当となりました。平成8年3月に教養部廃止に伴い農学部に移籍し、生物生産学科学多様性生物学講座所属となりました。その後の改組によって、応用生物科学部生産環境科学課程での応用動物科学コース(発生活化学)担当となって退職を迎えます。

農学部への移籍にあたって頭を痛めたのは、どのような研究

と教育を行うかということでした。私の学位論文は「両生類の孵化機構」でしたので、岐阜大学奉職後も両生類を材料に発生学関連の研究を続けておりました。幸いなことに農学部には旧家禽学科がありましたので、鳥類を研究材料としていた教員が多数おられました。孵化と言えば、鳥の孵化が直ぐに頭に浮かびます。鳥の卵を確実に孵化させることは、家禽産業にとつて非常に大切なことです。これは敬服に値することですが、この分野の研究者は正に試行錯誤により技術開発を行い、90%の孵化率を達成しておりました。しかし鳥の卵は卵殻が不透明ですので内部でどのようなことが起こっているかは分かっておりませんでした。このような状況のもとで「ウズラの孵化機構」の研究へ踏み出し何とか当初の目標を達成することができました。偶然とはいえ、思わぬ移籍により一つの纏まったことを成し遂げ得たことは研究者として大変幸福なことで、同僚諸兄および学生諸君に心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、岐阜大学、応用生物科学部、ならびに各務同窓会の一層のご発展を祈念申し上げます、退職の挨拶とさせていただきます。

退職に際して在職中にお世話になった各務同窓会員にご挨拶申し上げます。

私は、岐阜大学には平成11年10月に大阪府立大学から赴任して参りました。最初は、家畜病院専任教員として平成19年には連合大学院獣医学研究科の専任教員として約13年お世話になりました。

赴任当時の家畜病院は、一次病院であり7、8名の教員と臨床系の学生のみで診療をしていました。その後、二次病院化する過程で、CTが入り、新手術室が出来、教員増があり、それに昨年4月には新病院の増築、放射線治療器、本年にはMRIが導入され、また、特任教員や研修医、看護師などを含めて50名を超える大所帯になり、設備面や人的なパワーからも赴任当時の面影は一新されました。これらの経過を知る先生は私を含めてごく一部になってしまいました。

平成19年秋には、連合獣医学研究科の専任に所属替えになり、4大学をまとめるパイプ役となり、各大学へ出張することによ

退職を迎えて

深田 恒夫



退職に際して在職中にお世話になった各務同窓会員にご挨拶申し上げます。

て各大学で行われている研究内容を知ったこと、また、私自身の人脈が広がることは、今後の人生の糧になると思われま

公立大学から国立の岐阜大学に赴任して人脈を含めて本当に良い経験をさせていただきました、岐阜大学の一員になれたことを感謝しております。

最後になりましたが、岐阜大学応用生物科学部、連合大学院ならびに各務同窓会の一層のご発展を祈念申し上げます、退職の挨拶とさせていただきます。

退職記念事業のお知らせ

お知らせ

金丸義敬教授の定年退職にあたって

応用生命科学課程食品生命科学コースの金丸義敬教授は平成25年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、昭和52年7月に岐阜大学農学部助手として、家禽畜産学科学畜産製造学講座に赴任された後、助教授を経て平成5年に教授に昇任されました。先生の所属は、学部の改組に伴い、家禽畜産学から生物資源利用

学科、食品生命科学課程、応用生命科学課程と変更になりましたが、この間先生は、ミルクタンパク質の生理機能を一貫して研究され、多くの業績を残されるところに、留学生を含め多くの優秀な人材を育成して社会に送り出されました。

さらに、学内にあつては生物資源利用学科長や応用生物科学部副学科長、評議員を歴任された後、現在は応用生物科学部長として要職に就かれ、本学や本学部の発展に大きく貢献されております。また、学外にあつても、日本畜産学会編集委員、日本農芸化学会全国評議員・BBB編集委員、日本酪農科学会会長など関連学会の発展にも寄与されました。

この度、最終講義を来年2月8日（金）午後1時より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催いたします。皆様とともに先生の最終講義を拝聴し、長年のご功績とご指導に感謝の意を表したいと存じます。多数のご参加をお待ち申し上げます。

また、講義のあと午後4時半より、第1会議室において懇親会を開催する予定です。

（矢部 富雄）

木曾真教授 退職記念事業の お知らせ

応用生命科学課程分子生命科学コースの木曾真教授は平成25年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、昭和50年3月に京大院農学研究科博士課程から本学部助手に赴任され、51年に講師、54年に助教授、平成2年に教授に昇任されました。また、平成19年より京都大学世界トップレベル国際拠点「物質・細胞システム研究拠点」の主任研究者を兼任され、世界最先端の研究とそれに基づいた教育を進めてこられました。この間、生理活性物質としての複合糖質に着目し、その構造と機能の研究において卓越した業績を挙げられ、昭和58年日本農芸化学奨励賞、平成14年日本農芸化学賞、平成19年岐阜新聞大賞を受賞されています。また、論文引用の多い研究者として世界レベルで選ばれておられます。教育者としても、多くの優秀な人材を社会に送り出され、また学科長やセンター長、日本農芸化学会本部評議員や日本糖質学会理事など学内外の重責も務められました。

最終講義を来年2月8日（金）午後2時30分より応用生物科学

部101多目的ホールにおいて開催いたしますので、多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

また、講義のあと午後4時半より、第1会議室において懇親会を開催する予定です。

（石田 秀治）

棚橋光彦教授 退職記念事業の お知らせ

応用生命科学課程分子生命科学コースの棚橋光彦先生は平成25年3月31日をもって定年退職されます。

先生は平成2年に京都大学木材研究所助手から岐阜大学農学部助教授として転任され、平成4年に教授に昇任されました。平成11年には工学研究科環境エネルギーシステム専攻併任教授、平成16年からは学部改組により応用生物科学部教授として教育・研究に従事してこられました。

先生は高圧水蒸気という有力なツールを用いて、環境にやさしい木質新素材の開発、繊維に形状を記憶させる技術の開発、木材を自由に成型加工する技術の開発、未利用バイオマスから有用成分の効率的抽出法の開発等のご研究で多くの優れた成果をあげられ、また、多くの優秀

な人材を社会に輩出されてこられました。

先生のご退職を迎えるにあたり、最終講義を来年2月8日（金）午前10時30分より、応用生物科学部101講義室において開催いたします。皆様方とともに先生の最終講義を拝聴し、長年のご功績とご指導に感謝の意を表したいと存じます。多数のご参加をお待ち申し上げます。

また、講義のあと午後4時半より、第1会議室において懇親会を開催する予定です。

（藪谷 耕三）

伊藤愼一教授の ご定年退職の お知らせ

生産環境科学課程応用動物科学コースの伊藤愼一教授は、平成25年3月末に定年退職されました。

先生は、名古屋大学農学部畜産学科をご卒業後、同大学院修士課程を修了され、同大学院博士課程にご進学された後、昭和51年1月に岐阜大学農学部家畜畜産学科の助手としてご着任されました。その後、名古屋大学で農学博士の学位を取得され、平成元年に助教授、平成9年には教授にご昇任され、36年間余の長きにわたり大学にご奉職さ

れました。

先生は、特に家禽の効率的な育種改良に向けて、キジ目家禽種の比較染色体地図の構築とウズラの有用形質遺伝子の探索などの研究に精力的に取り組みられてこられました。また、在来家畜をはじめ、近年ではイヌ、ネコ、ヤギ、ウシ、霊長類の遺伝的多様性の様相までも探求され、これまでに数多くの研究業績を残されました。

学内では、博士課程の連合農学研究科生物生産科学専攻長、入試委員長などの多くの学内での職責を担われ、本学の発展に寄与されてこられました。さらに学外においては、東海畜産学会会長、同評議員、日本畜産学会理事および同評議員などの要職に就かれ、関連学会の発展に多大なる貢献を果たされました。

これまでの伊藤愼一先生のご功績に対して深謝の意を表するため、本来であれば退職記念事業を行わせていただかなければならないところですが、先生の固いご決意により、誠に残念ながら最終講義などの記念事業を執り行わないことになりました。先生の高いご見識と温かいお人柄に接してこられた研究室のOBやOGの皆様をはじめ同窓の皆様方には大変申し訳ないこととは存じますが、先生のご意思を十分にお汲み取りいただきご承諾いただきますようお願い

お願い申し上げます。

最後ではありますが、先生から頂戴した心ある多くのご指導に深く感謝申し上げますとともに、先生のご退職後のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

(土井 守)

大谷 滋教授の

ご定年退職の

お知らせ

生産環境科学課程応用動物科学コースの大谷滋教授は、平成25年3月末に定年退職されます。

先生は、北海道大学農学部畜産学科をご卒業後、同大学院修士課程を修了され、同大学院博士課程にご進学された後、昭和51年10月に岐阜大学農学部家畜畜産学科の助手としてご着任されました。その後、北海道大学で博士（農学）の学位を取得され、昭和59年に助教授、平成11年に教授にご昇任され、36年間余の長きにわたり大学にご奉職されました。

先生は、一貫して栄養学を基軸とした家畜家禽の飼養管理に関するご研究に邁進され、家畜や家禽における飼料利用性の改善や生産性向上のための飼育管理方法の策定に尽力されてこられました。さらに近年では、飼料米による産卵鶏飼養技術の確立や産卵鶏の誘導換羽用飼料の

開発や評価という日本の畜産業界での重要な喫緊の課題について、この道の第一線としてご活躍され多くの業績を残されてこられました。

学内では、附属農場長、附属フィールド科学教育研究センター長、応用動物科学コース長をはじめ多くの要職に就かれ、さらに学外では東海畜産学会会長、同評議員、日本畜産学会理事および同評議員などの職責を果たされ関連学会の発展に多大なる貢献を果たされました。

先生のご退職にあたり、大谷滋先生へのご功績に対し深厚な謝意を表するために記念事業を執り行わせていただかなければならないところですが、先生の固いご決意により執り行わないことになりました。研究室をご卒業・修了された同窓生の皆様、さらには先生の温かいご指導を仰がれた方々には、誠に申し訳ないことは存じますが、先生のご意思を尊重させていただいて決定した次第ですので、この点については十分ご理解をお願いいたしますと存じます。

(土井 守)

川島光夫教授の

ご定年退職の

お知らせ

生産環境科学課程応用動物科学コースの川島光夫教授は、平成25年3月末に定年退職されます。

先生は、岐阜大学農学部家畜畜産学科をご卒業後、同大学院修士課程を修了され、その後九州大学で農学博士の学位を取得されました。昭和60年6月には、岐阜大学農学部家畜畜産学科の助手としてご着任され、平成3年に助教授、平成7年に教授にご昇任され、計27年間余の長きにわたり大学にご奉職されました。

先生は、学生の時代から一貫して家禽の繁殖内分泌の生理学的な研究に没頭され、精力的に研究をなされてこられました。取り分け、家禽の排卵、卵および卵殻形成、放卵に関する生理現象に注目され、これらに関連した組織や器官が、間脳視床下部―脳下垂体―性腺系の内分泌現象の中でどのような連係をもつて制御されているのか、という機構を生化学的な手法によつて独自の着眼や手法により明らかにされてこられました。近年では、家禽の産卵に係るストレス生理と飼育方法に関する研究にも着手され、多大な業績

を挙げられておられます。これらの業績に対して、日本畜産学会賞や後藤養鶏学術奨励賞を受賞され、学内はもとより学外においても日本家禽学会評議員、東海畜産学会評議員をはじめとした要職につかれ、関連学会の発展に大きく寄与されるとともに、家禽産業界に大きな足跡を残されました。

この度の先生のご退職を迎えるにあたり、最終講義を来年2月6日（水）午後1時30分から、応用生物科学部101多目的ホールで開催する予定です。同窓の皆様とともに、先生の最終講義を拝聴し、長年にわたるご指導に謝意を表したいと思えます。多数の皆様方のご参加をお待ち申し上げます。

(土井 守)

吉崎範夫教授の

ご定年退職の

お知らせ

生産環境科学課程応用動物科学コースの吉崎範夫教授は、平成25年3月末に定年退職されます。

先生は、北海道大学理学部生物学科をご卒業後、同大学院修士課程を修了され、同大学院博士課程に進学された後、昭和49年岐阜大学教養部の助手としてご着任され、その後、北海道大

学で理学博士の学位を取得され、昭和59年には教養部の助教授、平成4年に教授にご昇任された後、平成8年には学内の配置換えにより農学部教授としてご着任いただき、これまで38年間余の長きにわたり大学にご奉職されました。

先生は、農学部に転任されてからは、当時の生物生産学多様性生物学講座に所属された後、動物発生進化学研究室を立ち上げられました。多くの先生のご業績の中でも特筆すべきご研究内容は、鳥類から両生類に至る動物の卵の成り立ちを、形態学的・分子生化学的に深く解明されたことです。応用動物科学コースはもとより学部や課程に、新鮮で斬新な教育研究上のご功績を残していただきまし

た。

学内では、生産環境科学課程長、応用動物科学コース長、全教総合科目部会主任をはじめとした各種学内委員をお勤めになられ、また教養教育センターに深くご貢献され、さらには多数の関連学会の発展にも寄与されてこられました。

先生のご退職にあたり、吉崎範夫先生に対し深く感謝の意を表するために記念事業を催さねばならないところではあります。が、先生の固いご意思を尊重申し上げ、最終講義などの事業を執り行わないことになりました。

た。研究室をご卒業・修了された同窓生、さらには教養部時代に厚いご指導を仰がれた皆様方には、誠に申し訳ないことは存じますが、先生のご意思を最優先させて頂いたしましたのであしからずご了承下さいませよう切にお願いいたします。

最後になりましたが、先生から頂戴した多くのご指導に対し深く感謝申し上げますとともに、先生のご退職後のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

(土井 守)

深田恒夫先生の 定年退職のお知らせ

深田恒夫先生は、昭和48年に大阪府立大学に助手として奉職され、講師、助教授を経て平成11年10月に農学部附属家畜病院教授として岐阜大学に赴任されました。その後、平成19年10月に岐阜大学大学院連合獣学研究科教授として移籍され、平成25年3月をもって定年退職されました。岐阜大学では、講義・実習に加えて動物病院での診療と運営業務にあたり、平成15年から病院長として病院新築の基盤を築かれました。平成19年からは連合獣医学研究科の運営に貢献され、平成24年度は研究科長として管理運営の重責を担って

います。研究面ではイヌの細菌感染症の研究を進められ、学会活動として日本小動物獣医師会中部地区会長、日本獣医学雑誌編集委員等を務められています。先生の温厚な人柄は誰からも敬愛され、その笑顔には癒されます。ご退職を迎えるにあたり、最終講義を平成25年2月8日(金)16時より応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催する予定です。皆様と共に最終講義を拝聴し、そのご功績とご指導に感謝の意を表したいと存じます。

(北川 均)

同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回、優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で平成19年度に設立されました。平成23年度も、各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学部および応用生物科学研究科の学生の中から、次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

受賞者(敬称略)

食品生命科学課程

村田 一馬

生産環境科学課程

野田 沙織

獣医学課程

大塚 由沙実

資源生命科学専攻

本田 明里

生物環境科学専攻

日恵野 綾香

村田 一馬

この度は同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思います。このような賞をいただいたのは先生方や友人、家族からの大きな支えがあったからです。心から感謝いたします。

岐阜大学での四年間は、かけがえのないすばらしい友人やたくさんさんの知識を得ることができ、本当に充実した毎日でした。

今後の大学院での生活においては、四年間で身に着けた知識と技術を生かし、価値ある研究結果を出せるよう精進していきたいと思っております。

野田 沙織

この度は同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。学生生活の最後にこのような賞をいただくことができ、社会に出る上で大変励みになりました。

高校生のときからの夢であった現在の職業に就くことができ、たのは、熱心に教えてくださった先生方、心優しい友人の支えのおかげです。心から感謝いたします。

社会に出て困難にぶつかることもありますが、大学生活で得たものを活かし、前向きに乗り越えたいと思います。

大塚 由沙実

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞を頂き、大変光栄に思っております。岐阜大学で6年間充実した日々を送り、このような賞を頂くことができたのは、熱心に指導してくださった先生方、共に高め合った友人達、大学に通わせてくれた家族、大勢の人達のおかげだと思っております。本当にありがとうございます。

岐阜大学で学び、悩み、考えた経験を、獣医師として多くの人々や動物達のために活かしていけるように、日々努力して参りたいと思います。

本田 明里

この度は同窓会長賞をいただきまして、誠に光栄に存じます。常に熱心に指導してくだ

さった先生方、大学生活を支えてくださった研究室のメンバー、友人、そして家族のお陰と、心より感謝申し上げます。大学院に進学したことで研究に没頭でき、貴重な経験を多く積むことができました。このことは、私にとって大きな財産であると感じています。

岐阜大学で得られた経験を今後の人生に活かし、精進を重ねて成長していきたい所存でございます。

日恵野 綾香

この度は同窓会長賞をいただき誠にありがとうございます。思いがけず身に余る思いですが、このような機会をいただき、先生方、先輩、同輩、後輩、そして家族の存在を改めて認識し、支えがあることを心から感謝致しております。また、一介の大学院生としての些細な出来事も、振り返れば得難く、岐阜大学で出来た繋がりを嬉しく感じています。最後になりましたが、同窓会の皆様には日頃よりご厚情を賜り、重ねて御礼申し上げます。



吉寄基金

平成23年度受領者報告

ヒト常在細菌と健康に関する

ゲノム生物学的研究

鈴木 徹

動物の腸内、皮膚には、驚くほど多くの細菌が生息している。これらの多くは病原性をもたず、かえって強毒性の侵略から動物を守る働きをしていると考えられるが、そのメカニズムが解明されているものはほとんど無い。1950年以降、抗生物質の開発によって感染症による死亡者は劇的に減少した。また、近年の高度に衛生的な食と住環境により、人類は進化史上経験の無い細菌学的に安全な状況を体験することとなったが、我々は常在菌叢をも破壊してきたといえる。近年、増加している花粉症、アトピー性皮膚炎、過敏性大腸炎などの原因の一部は、このような極度に衛生的な環境によって元来ヒトと常在菌が結んでいた共生関

係が断ち切られたことによって引き起こされたことを示す実験事実が、少しずつ明らかになってきている。本研究は、ヒト常在菌をゲノムレベルで解析することにより、このメカニズムを明らかにし、ヒトと微生物の本来あるべき関係を取り戻す手がかりを得ることを目的とする。昨年は、他の外部資金に恵まれ無かつたところ、吉寄清己研究支援金の援助を受け6報の原著論文を発表することができた。また、2名の博士課程の学生がこの資金の援助もあり学位を取得にこぎつけることができた。感謝。

鉄還元菌が持つ

可能性を信じて

中村 浩平

私は、昨年度に引き続きC19吉寄清己研究支援金のご支援を頂き、「鉄酸化物利用型嫌氣的メタン酸化微生物の探索―地球科学的機能と微生物燃料電池利用への可能性―」について研究を行っています。

結論を先に申し上げますと、支援期間内での「鉄酸化物利用型嫌氣的メタン酸化微生物（以下、鉄還元メタン酸化菌）」の発見に至りませんでした。しかし、ご支援の結果、鉄

酸化物利用微生物（以下、鉄還元菌）のゲオバクター属の新種の分離に成功しました。我々が分離したゲオバクター・ルティコラは蓮田から分離されました。蓮田も水田と同様にメタン生成環境であることから、鉄還元メタン酸化菌の分離源としました。様々な培養を試みた結果、いくつかの鉄還元菌を分離しましたが、何れもメタン酸化をしませんでした。予想をしていたものの、鉄還元メタン酸化菌の発見はやはり一筋縄では行かないようです。

さて、ゲオバクター・ルティコラには、鉄の利用（還元）以外に、硝酸塩をも還元しました。また、ゲオバクター属細菌には、この他に硫酸マンガン（IV）やウラン（VI）等を還元するものもいます。更に、これらの物質を利用して種々の芳香族化合物を酸化するものも存在します。この幅広い基質利用能から、ゲオバクター属細菌の地下環境のバイオレメディエーションへの利用や、微生物燃料電池の「電気生産菌」としての利用が行われています。

ゲオバクター属細菌に代表される鉄還元菌は、応用面でも様々な可能性を秘めるものの、他の微生物に比べまだまだ不明な点が多く、今後の研究の進展が期待されています。「鉄還元メタン酸化菌」についても同様

です。その発見は世界が注目するところですが、息の長い研究になるかと思いますが、鉄還元菌のもつ可能性を信じ、本研究を継続したいと思います。

最後になりましたが、ご支援頂きました吉寄清己さまに改めて深く感謝を申し上げます。

平成24年度受領者

本年2月に第6回吉寄清己研究支援寄附金への募集を行ったところ、6件の応募がありました。いずれも応用生命科学課程の特徴を表した研究計画でありましたが、選考委員会で審議しました結果、今年度は岩橋均教授の研究課題「微高压炭酸ガス殺菌・保存・流通技術データシート作成に関する研究」に研究支援金百万円が授与されました。

本研究支援寄附金の主宰者である吉寄清己氏が5月に当課程を訪ねてくださいました。昨年度および今年度の受領者とともに歓談し、また、大先輩が日頃考えておられる技術やエネルギーに対するアイデアを披露していただきました。

（応用生命科学課程 後藤清和）

支部会員からの便り

支部の総会は

「身近な人脈となる 懇親の場」

兵庫県支部

榊原 雅雄（V大18）

私は同窓会に直接関与していない一会員ですので支部の紹介や報告は出来ません。しかし、高齢者入りした今、私自身を振り返り今後どのように支部と関わって行けるのかを探ってみようと思います。

現在、兵庫県支部の会員は300名余で、3年に1度、母校の先生の参加をお願いして、総会を兼ねた親睦の会を重ねており、常に30名程度の出席があるとのこと。

私自身転勤族でしたので、子供が神戸で中学・高校に通い兵庫県に居住したことから、兵庫県支部の会員として登録されたものと思われませんが、定年退職するまでは単身赴任をしていたこともあつて、支部の会員であること

すら自覚していませんでした。そんな私が3年前、総会の案内（平成21年11月15日開催）を手にし、

どんなものか見たくもあつて初めて「出席」と返事したのです。存知あげていた方は先輩一人で、どうなることかと疑心暗鬼でしたが、職場とは異なり上下の関係を意識することなく、直ぐに馴染め、全く気を遣うことがない懇親の場であつたことを思い出します。

一般に、職場を離れた者は地域での知り合いもなく、特に男性は仲間を作るのは苦手であると言われています。そうだとすれば、各務同窓会支部の一つの役目として、「昔、同じ所で学んだ！」との一点でも仲間となることは可能であり「身近な人脈となる世代を越えた気楽な集まりの一つ」そんな位置付けでいいのではないかと思います。今年、前回開催から3年目で開催予定の年とのこと、今後とも継続して開催されることを願うものであり、幹事に感謝！です。

「神々の国しまね」から

島根県支部

星野 善樹（E大18）

当支部の会員は極めて少人数ですが、毎年支部の総会を開催し、代表委員会の報告に併せて、懇親会を行っています。和気あいあいとした雰囲気、昔話に花を咲かせながら、一年ぶりに再会する絶好の機会となっています。

支部の会員も年々高齢化し、旧高等農林・農専の会員が40%を占めている一方、新制大学の卒業生の内、学部再編後の会員は20%に過ぎません。

昨年の各務同窓会報No.92に掲載されていた平成二十三年度の入学者名簿で、県内出身者が入学したことを知り大変喜んでところです。今後の進路を見守りたいと思っています。

さて、島根を舞台とする神話が数多く記された日本最古の歴史書「古事記」が、七百十二年に編纂されてから今年で千三百年を迎えます。

また、来年には六十年に一度の「出雲大社の大遷宮祭」が執り行われます。

島根県ではこの節目にあわせ

て、大型観光キャンペーン「神々の国しまね〜古事記千三百年〜」を展開中であり、そのシンボルイベント「神話博しまね」が、七月から始まり、十一月十一日まで開催されます。

「神話博しまね」の主会場は、旧暦の十月に日本各地から八百万の神々が集まる出雲大社の東隣にある「島根県立古代出雲歴史博物館」です。そこには、島根県内各地の魅力を訪ね歩いていただくための「エントランスゾーン」が設けられています。

また、「神話博しまね」の開催期間中は、県内各地で様々な催しが展開されています。縁結びの地の「松江・出雲」、オロチ退治の舞台の「雲南」、柿本人麻呂と石見神楽の「石見」、世界遺産の石見銀山の「大田」、ジオパークの「隠岐」において、様々な「しまね」の魅力を体感することができま。

「出雲大社の大遷宮」は、平成二十年四月二十日に大國主大神を仮殿（旧拝殿）に遷座奉り、その後国宝本殿の檜皮ぶき屋根のふき替え工事を行い、修造が完成します。平成二十五年五月に、元の本殿にお還りになる大遷宮祭が執り行われる間の、一連の大事事となっています。

また、修造は境内境外の摂社・

末社等においても、本殿の修造に併行して平成二十八年まで行われます。

是非、この機会に古（いにしえ）から続く「しまね」の魅力に接してください。

ご来県をお待ちしています。

思い出すことども

（つづき）

富山県支部長

温井 喜彦（A大8）

まず最初に、昨年の本会報の拙稿について訂正とお詫びをいたします。

寮のことについて、瑞天寮と凛真寮の交流と懇親とあるのは、凛真寮の旧寮と新寮の交流、懇親の誤りでした。

次に、馬術のことについて若干補足をしておきます。

華やかでかつこよい障害飛越もさることながら、馬術の基本は馬場馬術です。地味ではあるが、微妙な手綱さばきと拍車を使って、意のままに馬を動かす馬場馬術こそが馬術の基本であります。

また、馬に蹴られた話でありますが、馬はまず首筋を撫で、胴体を軽くたたき撫でながら後ろへ

各務同窓会報

回れば、まず蹴られませんか。

それと、馬もよく人を見ている
ということでもあります。人間も
目は口ほど物をいうといいますが、
馬の眼を見ていると、警戒を
している眼、気を許して安心して
いる眼など、馬の気持ち、表情が
よくわかります。また、馬は氣に
入らないとテコでも動きません。
「死に馬に蹴られる」「生き馬の眼
を抜く」「人間万事塞翁が馬」な
ど、馬について多くの格言があり
ますが、一年足らずの馬術部生活
で馬から多くのことを学びまし
た。

終わりに、本年、二年に一度の
各務同窓会富山県支部の総会と
懇親会を七月二十一日に開催い
たしました。

人集めに苦慮

各務同窓会静岡支部

藤森 進(V大6)

静岡支部の会員は210人
で、支部総会を2年に1回開催し
ていますが、出席人数は年々減少
しています。30年程前に比べると
3分の1の状況です。毎回、会員
の1割の20人程度の出席しかあ



りません。これは代表委員会に出
席して各支部の様子をお伺いし
ていますが、どの支部も同様の
ようで、どこも総会への出席者を
増やすことは大変のようです。

そこで当支部では、どうしたら
総会に多くの人が出席していた
だけるか、役員でいつも話し合っ
ています。その解決策として、毎
年やっていった総会を2年に1度
に変更しました。しかし、結果は
同じでした。

次に、幹事を増員しました。幹
事は卒業学科ごと1名を2〜3
名に増員しました。その結果、役
員になれば責任を感じ、大部分の
方が役員会か総会のだちらかに
は出席してくださいますので、一
定の効果がありました。幹事は、
若い人になるべく多く出席して
いただけるように、卒業年次の新
しい人から多く選考しています。

3つ目は、代表委員会、大学の

近況の報告をていねいに
するようにしています。
また、総会には必ず母校
の先生の出席をお願いし
ています。

4つ目には、懇親会の
席で、私が手品(アマチュ
ア優勝)、日本舞踊(名取)
の芸を披露することにし
ています(写真)。今では
この芸を見るために出席して
くる人もいます。

出席者を増やす努力をどのよ
うにされているか、各支部の様子
を知りたいと思っています。

関西各務同窓会より

久本 秀夫(M2)

同窓会の皆様に、ぜひお知らせ
したいことがあり、ペンを取りま
した。

私ども、農芸化学科および農産
製造科卒業の大先輩にあたりま
す、昭和9年3月ご卒業の石高治
夫様が、本年、満100歳のお誕
生日を迎えられ、国からも色々
とお祝いの品を戴かれ、いまなお、
かくしゃくとされお元気では
いらっしゃる。

幹事の方々と相談の上、お祝い



この間、日本珪瑯工業会会長、
北大阪工業会会長などを務める

石高治夫 著

「100年を振り返って」より

の品を携えて本年1月5日に石
高様のところへ参りましたとこ
ろ、大変喜んでいただき、石高様
が書かれた「100年を振り返っ
て」と題した小冊子をいただきま
した。大先輩の今までの業績をご
紹介します。

石高 治夫(C8)

大阪府出身

昭和9年

岐阜高等農林学校

農芸化学科卒業

東洋製罐株式会社入社

昭和26年

日本フェロー株式会社入社

昭和49年

同社長

昭和57年

勲四等瑞宝章

昭和62年

同会長

会員の受賞

本池 武(A大11)

瑞宝小綬章

平成22年11月3日

野々村英夫(C大1)

瑞宝中綬章

平成23年11月3日

竹中 登一(V大12)

旭日重光章

平成24年4月29日

事務局からのお知らせ

会員の皆様におかれましては、日頃より同窓会に格段のご

くの正確な情報を迅速にお寄せいただければ幸いです。

協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。東日本震災の発生から、はや一年が過ぎ去りましたが、依然として被災地や国民の心底に震災の傷跡を今なお生々しく残し、この古今に例をみない災害の大きさが復興の妨げとなっています。被災された会員の皆様が受けられた深い悲しみや苦しみは計り知れませんが、震災前の豊かな生活に一日も早く戻られることを願つてやみません。

本会報の誌面を通して、年度ごとに学部ならびに大学の近況や会の事業等についての報告をさせていただいておりますが、全国の各支部や会員の活動に関する記事についてもより積極的に掲載し、本会報が同窓会——支部——会員間の輪を育み広げる情報誌としてお役にたてるよう微力ながら努力させていただいております。年に一度の発行ですので時期は限られてはおりますが、各支部や会員の皆様から

さて本年は、6年に一度の各務同窓会員名簿(復刊18号)の発刊の年にあたりますので、本会報の発行が例年よりも3ヶ月ほど早くお届けすることになりました。ご自身の記載内容についてよくお確かめいただき、住所や勤務先などについての変更がございましたら、同封の葉書などで同窓会事務局にご連絡いただきますようお願い申し上げます。この名簿は、新たに同窓会員になった在學生にも送られ、彼らの胸に抱いている夢や職種を具体化する上において重要な指針となっておりますので、若き後輩のためにも、より多

最後になりましたが、これまで長年にわたり同窓会長として多大なるご尽力を賜った後藤悦男様（V大2）が平成24年6月2日の代表委員会の日をもってご勇退され、後任として水野隼人様（C大15）が新会長にご就任されることになりました。後藤様には深謝申し上げますとともに、会員の皆様方のひたすらなるご健勝とご発展を祈り上げます。

寄附金のお願いについて

平成 20 年から始めました寄附金制度は、趣意書にもありますように継続して行っています。本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部へ寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました1ヶ月半程あとに、応用生物科学部より、郵便局の振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

申込書の記入の仕方

詳しくはこちらを確認してください。

* 申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
岐阜大学応用生物科学部学務係 気付
岐阜大学各務同窓会事務局

第 93 号

平成24年8月9日
岐阜大学各務同窓会

〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1
TEL (058) 293-3411
FAX (058) 293-2841
振替 00820-9-12742
<http://www1.gifu-u.ac.jp/~kagami01/>
e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp

【申込書】

別紙様式第1号

岐阜大学長 殿

住所氏名を記入し、
押印してください。

寄附者 干
住所
卒科
卒回(卒年) 第 回 (昭和 年 卒修)
氏名 印

(組織にあっては、組織名及び姓・氏名をお願いします。)

金額を記入して
ください。

1 寄附金額

2 寄附の目的及び条件

目 的 岐阜大学における学術研究費

条 件 なし

3 寄附金の名称
岐阜大学奨学寄附金

4 その他（主たる寄附金対象部署等）
 応用生物科学部共通
 （対応責任者：職名 応用生物科学部長 氏名 金丸 義敬）